

## 雨宿りの箱庭

大遷宮の年に多崎つくる薬害 PTSD からの離脱支援法を考える

森下 温美  
(関西医療学園)

### I. 問題と目的

『雨宿りの箱庭』と称する DV シェルターでのこころのケア (PTSD 予防) を 10 例報告してきたが、概念を広げて社会問題化している薬害 PTSD 治療の事例を紹介しようと思う。

### II. 事例の概要

小3の時、学校で不適応を起こしたとのことで、向精神薬処方の上、支援学級在籍扱いとなり、不登校に陥った中1男子生徒 (以下 C1 と表記) が、箱庭を5回置くうちに登校するようになった。母親も箱庭によって変容する必要がある、それが C1 の変容を支えたと思われる。

### III. 面接経過

#### # 1 箱庭①

母子一緒に来室。薬害のためか浮遊しているような感じだが、期待していたようで、すぐ箱庭に向かう。中心に置かれた家が混乱し、「誠」の字が裏返っていてサンタクロースも倒れているが、家の裏にはトンボがいて、妖精は門松の上でバランスをとろうとし、何重もの戦いがあり、亀や蛇も動き出しており、灯がつく準備もできている。母親に小声で単語を発したり大きなため息をついたりするが治療者 (以下 Th と表記) とは直接的な会話は無い。母親は防衛的ながら C1 に促されて楽しみながら1つの完成された作品を仕上げたように見えたが、直後から辛そうだった。ガラス瓶のビーズは出さなかったが、退出時、廊下にいるゴキブリを助ける。

#### # 2 箱庭② 2週間後

C1 はすぐに開始。戸惑う母親に対し C1 は『なぜだ』と無言ながら一瞬強く批判したが、箱庭には女性を救う僧侶を置いていた。脚下からは黒い影が立ち現われ、地門には鬼門から白っぽい犬たち (出し忘れた Th に『にかっ』としたのが印象的だった) の行列が水を飲みに来た。龍や招き猫、それらを統合する聖職者もいる。創り終えると、母親の砂箱の砂をダイナミックに動かし (母親は押し返してもよいかと聞いた)、

Th が母親救済のために用意したお盆で器用に遊び始めた。母親は C1 の作品に驚愕しつつしみじみと何かを感じながら、やや元気を取り戻し、C1 はよく食べるようになったと報告される。ちょっと普通の体型に近づき、視線が安定している。屈伸運動で骨をポキポキ鳴らし、靴べらを左の踵に差し込み、おどけてびよんびよん跳ねる姿を母親と笑ったが、頭を扶まれ排除された人形が痛々しい気がして、減薬の準備を検討してもらえるよう主治医に依頼する。

#### # 3 箱庭③ 2週間後

来室の意味を巡って親子で話をしたようで、母親はちょっとがんばって置く努力をしていた。子どもは満足そうで、ちょっかいをかけるので、それを Th が護る。水辺が現れ、新撰組が船出しているが、妨害もある。聖職者もいるが、音楽が中心になっているような構図。母親は、過去の何物かと向き合いつつ未来予想図を描き、他にもまだ見えないものがあるが、それを観ないといけないというような期待と不安を言語化した。C1 はお盆に、駒やお多福さん (いじめているように見えた)、ひょうたんを乗せ集中して曲芸のような遊びを楽しむ。ため息は聞こえなかった。驚くほど食べるようになり、鬼トレ (ゲーム) をし、部活にも初めて参加したと報告を受ける。

#### # 4 箱庭④ 2週間後

Th が大幅に遅刻して到着、帰ってしまったかと心底落胆した瞬間、横からぬうっと現れてにこっとする。金のサルと鶏、2つの大木を置いてみるが、やめて Th に黄土色の珠を渡してから山を作り、虹を置いてろうそくを立てた。終わったのかと訊く母親の作品にちょっかいを出したあと、お盆の上で飛ばしていたリングを5つ山に飾る。母親はうっそうとした古墳の森のような作品を仕上げ、「これまでもがいていた自分」を表現した。地門の白雪姫に C1 は勝手に「点滴」しておどける。母から C1 が断薬したこと、小さい時から自然児で敏捷だったこと、注射が

嫌いでオタフク風邪の予防ワクチンを嫌がっていることを聴いて、Th はそれを強く支持する。

#### # 5 箱庭⑤ 2週間後

色彩を持たない影のような人形を5つ置いてから、ほぼありったけのミニチュアを渦潮のように勢よく時計回りに一気に置いてゆく。中心には赤ちゃんが寝ていて、僧侶や中国の賢者らが見守っており、やじろべえもいる。おどけて新撰組の頭の部分に刀を差し込む。駒を器用に二重にしてお盆で遊んでいたが、お多福さんが伏して、達磨さんが現実方向を向いている。母親も迷うことなく、山を造り、2種の船を置いた。「元気になりましたね」と言うと、本をよく読むようになり、夕方に学校に行ったこと、制服がきつくて私服で行ったこと、クラブ活動にも安定して参加していて喜んでいること、なんとみんなより上手だと先生に誉めてもらったことなどに驚いているとあふれるように報告され、いつの間にか防衛がとれているのに気づいた。

始業式から学校にも普通に登校するようになったとメールがあり、そのまま終結になった。

### IV. 考察

#### 1. 薬害問題の流行

C1 は自然児であり、集中力や身体能力、感受性が非常に高く、それが集団のなかでは適応性の悪さや発達障害的なものとみなされてしまったのだろう。強く沈静されすぎて学校にも行けなくなってしまっていたが、長期の服用にもかかわらず、本来の特性が損なわれなかったことを知り安堵すると共に人間のもつ自己治癒力の凄さに敬服した。とはいえ、成長期なのにひょろりと浮遊しているような存在で、将来遅発性ジスキネジアを発症するリスクまで負わされ、その絶望と苦痛はいかほどのものだったろうか。現代医療は何とかわいそうなことをするのだろうか。『借りぐらしのアリエッティ』で PTSD 少年がベンツ (ドイツ精神医学の象徴) に乗せられて登場、助けようとするアリエッティたち自然治癒力が薬漬けにされそうな危機に見舞われるシーンがあるが、現代の子どもたちをとりまく医療化の危険性が端的に映されている。

母も向精神薬を服用しており、ストレス障害であることがうかがわれたので、こちらからは何も質問できなかった。DV シェルターでも同じであるが、箱庭というものは懐深く PTSD の問題

を受け止めてくれるように思う。母親は付き添いのつもりで、服用中のギリシア神話の名前が冠された薬の効果を謳うような穏やかさを感じさせる作品を創ったが、不問にされ抑圧されている問題に気づかされ、つらくなったのだろう。如人千尺懸崖上樹 (百尺竿頭) の心境に追いつめられたが、砂と子どもに励まされながら一歩前進することができたのではないだろうか。

#### 2. 色彩を持たない多崎つくるの多色マンダラ

最後の作品はカラフルなマンダラ調である。渦巻きのような勢いがあり、母親も巻き込みながら不退転で現実に消えていった印象がある。PTSD 治療でトラウマに向かうと、よいニュースと悪いニュースがある。C1 は影を表現し、母は影に怯えた。本のカバーが陰陽五行説と平成の大遷宮の関係を端的に示し、ページをめくれば PTSD 克服の教科書のような村上春樹の新作さながらのシリーズを見せてもらった。

#### 3. 華嚴の海印三昧の具現化「お水取り」

渦巻きが起こり、よき春 (新学期) を迎えるには、箱庭に集中し水と火の行事を執り行う必要があった。これが架空というものではないだろうか。箱庭が橋になる (ラポール) のであり、これが「一即多・多即一」の意味であり、集合的無意識の常識を超えていく如人千尺懸崖上樹 (崖の上のポニョ) の実際ではないだろうか。

### V. おわりに

アスペルガー症候群は DSM 5 で消された。臨終の ADHD の父 (Leon Eisenberg) は「ADHD は架空の病気の代表例」と証言した。もはや発達障害の時代ではない。ジブリの言うように不安と神経症 (PTSD) と薬害の時代である。象徴が使えない発達障害の子どもが増えていると言う愚説はもうやめて、『古事記』に流れる普遍的象徴性をつかみ、個性化しようともがく子たちの叫びを傾聴するのが心理療法家に求められている仕事ではないか。因幡の白兔は間違っただい治療と自然治癒力が回復する正しい治療を受けた。薬漬けの C1 たちは前者の白兔である。瀕死の C1 たちをオオクニヌシに出会わせることにしか心理職の存在意味はないだろう。大遷宮の今年、どうかどうか一展開が起こりますように。

### VI. 文献

村上春樹：色彩を持たない多崎つくと、彼の巡礼の年。文芸春秋、2013。

